

< 沖縄県立開邦高等学校 >

(地歴) 科 授 業 シ ラ バ ス

科目名	単位数 (標準単位)	学科・学年・学級
地域研究 I	2 単位 (2)	学術文科・学術理科 3 年 1 ~ 4 組

1. 学習の到達目標等

学習到達目標	近代に入り世界の一体化が進み、相互に影響しあう関係が形成されていった。その歴史的な展開を、わが国の歴史と関連させながら理解させ、現在の諸課題に対応しうる歴史的思考力を養い、国際社会で主体的に生きるための知的探究心と教養を育成する。		
使用教材・副教材等	『新世界史 B』 (山川出版社) 『アカデミア世界史』 (浜島書店)	学 習 形 態	一斉授業 グループ 学習

2. 学習計画

学 期	月	学習項目 (単元名等)	学習内容	評価の観点	考 査 範 囲
一 学 期	4	第 1 章 ~ 12 章 古代・中世・近代	世界史 B で学習した、古代・中世・近代の流れを概観する。	・世界史 B で学んだことの復習と、古代から近代までの流れを理解させる。	中 間 考 査
	5 6 7	第 13 章 帝国主義とアジアの民族運動	1. 帝国主義と列強の展開 2. 世界分割と列強対立 3. アジア諸国の改革と民族運動	・18~19 世紀におけるヨーロッパとアジア諸地域との関係に変化について、個別の事例を下に考察させる。 ・ヨーロッパ諸国に政治・経済・軍事・文化面での圧力に対して、アジア諸地域がどのような対応をとったか考察させる。 ・アジアの中の日本という観点を踏まえて、近代化の動きが、中国・朝鮮との関係性の中でどのように推移したかを考察させる。 ・帝国主義の動きが世界分割をすすめた実態を確認し、民族運動について考察させる。	
		第 14 章 二つの世界大戦	1. 第一次世界大戦とロシア革命 2. ヴェルサイユ体制下の欧米諸国 3. アジア・アフリカ民族主義の進展	・第一次大戦前の国際対立の過程を理解する。 ・総力戦としての第一次世界大戦の特徴を踏まえながらロシア革命や民族運動の隆盛につながった点を考察させる。 ヴェルサイユ体制とワシントン体制の特質についての理解を深め、アメリカ合衆国が台頭したことを考察させる。 ・近代化を推進し、欧米列強に対抗しようとするアジア・アフリカの動きを各国別に整理させ、その全体像を考察させる。	
【1 学期の評価】 定期考査・提出物・学習活動への参加態度などにより総合的に評価する。					

二 学 期	7	第14章 二つの世界大戦	4.世界恐慌とファシズム諸国の侵略 5.第二次世界大戦	・世界恐慌とその影響で排他的ブロック経済が生まれ、全体主義の台頭と第二次世界大戦の勃発につながった点を考察させる。	中 間 考 査	
	9	第15章 冷戦と第三世界の自立 第16章 現代の世界	1.東西対立の次始まりとアジア諸地域の自立 2.冷戦構造と日本・ヨーロッパの復興 3.第三世界の自立と危機 4.米・ソ両大国の同様に国際経済の危機 1.冷戦の解消と世界の多極化 2.ソ連・東欧社会主義圏の解体とアジア圏社会主義国の転換 3.第三世界の多元化と地域紛争 4.現代文明	・米ソ両超大国による東西冷戦の成立と展開について、具体的な事例をもとに考察させる。 ・アジアやアフリカにおける植民地からの開放と、第三勢力の形成について理解を深め、1970年代までの歴史の展開について考察させる。 ・「共産主義」陣営の崩壊による冷戦終結の過程を理解し、その後におとずれる地域紛争の実態について考察を深めさせる。 ・EUに代表される地域統合の試みが、国民国家の相対化につながってゆく展開について考察させる。 ・地球規模での課題である、環境問題や人口問題、南北格差の問題などについて考察させる。		
	10 11 12	テーマを設定して、「歴史を俯瞰して見る力」、「記述形式での表現力」の向上につなげる。 テーマ：世界システム論、東西交易の歴史、キリスト教史、東アジアの中の日本、近代イスラーム史、帝国主義下のアジア・アフリカ				期 末 考 査
	【2学期の評価】 定期考査・提出物・学習活動への参加態度などにより総合的に評価する。					
三 学 期	1 2	これまで学習した時代や地域について、学びの再確認を行う。				
教科書・資料集をもとに進め、適宜、グループでの学習を設定・実施していきます。						
【年間の評価】 知識・理解・意欲・態度などこれまでの取り組みから各学期の評価をもとに判断する。						